

防災まちづくりワークショップにおける討議の可視化とそれを通じた内容の把握

山梨大学	正会員	○佐々木 邦明
山梨県	正会員	飯島 陽介
山梨大学	正会員	鈴木 猛康
山梨大学	正会員	大山 勲
山梨大学	正会員	秦 康範

1. はじめに

防災を切り口としたまちづくりにおいては、住民と行政の協働が欠かせないが、一般に住民には防災に関する関心や知識が少ない場合が多く、行政には住民がどのような関心や知識を持っているか等の情報がない。そのため、住民の関心と知識の向上を目的としてワークショップ（WS）が開催されることが多い。WSは住民同士の意識共有だけでなく、その議論の経過を通じて行政が住民の実態を知ることのできる機会としても活用できる。しかし、このWSを活用した住民と行政の協働にはいくつかの課題もある。例えば、最終的な発表で議論をとりまとめるが、それが議論を正確に反映しているとは限らず、その結果として、行政が全体の議論を把握できないことや、住民もWSの議論による情報共有が知識として地域に蓄積されない可能性などの問題点がある。また、他の問題点として進行がファシリテーターに依存し、特定のテーマにのみ参加者が情報共有を行うケースも考えられる。そこで本研究は、防災まちづくりをテーマとしたWSにおいて、その議論の内容と発表内容を分析し、WSにおいてどのような話し合いが行われ、それが発表内容に正確に反映されているかどうかを明らかにする。

2. 分析対象

現在山梨県において、文部科学省安心・安全科学技術プロジェクトの一環として、「住民・行政協同ユビキタス減災情報システム（代表：山梨大学 鈴木猛康）¹⁾」の研究と地域への展開がはかられ、市川三郷町の市川大門6丁目自主防災会と協働し地域の減災情報システムが構築されている。プロジェクトの

開始時点においては、住民は地域の災害脆弱度等に対しての知識が乏しいことが指摘された。そこでプロジェクトの第一歩として住民によるまち歩きを行うことで地域の課題や問題点を確認し、同日に、まち歩きで指摘された課題の確認と解決のためのWSを開催した。両者は平成21年9月6日に町内の防災訓練とあわせて実行された。このまち歩きには50世帯の自主防災会から47名が参加した。午前中1時間程度10世帯ほどの組別にまち歩きを行い、続いて2時間程度のWSを開催した。その中で指摘された課題と解決の方向性について各組ごとに発表を行い、組内での意識・情報共有と、組間での情報共有を行った。その様子を図-1に示す。

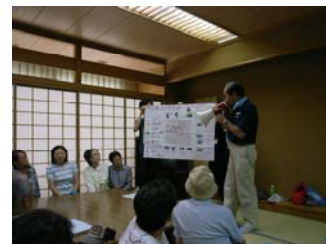


図-1 WSの発表の様子

3. WSの討議分析

WSはプロジェクトメンバーがファシリテーターとなり進行された。とりまとめは付箋カードを活用したKJ法を用いて行われ、各個人が課題や解決についてカードに書き込み、順次その内容を発表しながら模造紙上にグルーピングを行い、最終的にその模造紙を用いて発表した。通常はこれでWSは終了となるが、本研究ではこの経過の録音データをテキストデータとして分析対象とした。WSは組別に4グループで行われたが特に録音状態がよく、すべての発言が聞き取り可能な二つのグループを対象として分析を行った。特に本稿では紙面の都合により、そのうちの一つのグループの議論を分析した結果を示す。

キーワード 防災まちづくり, ワークショップ, テキストマイニング

連絡先 〒400-8511 山梨県甲府市武田4-3-11 山梨大学大学院医学工学総合研究部 TEL055-220-8671

